

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	令和7年度
事業者名	・事業者名 かわさき未来応援パートナーズ ・代表者名 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 木村 昌平 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名 公益財団法人川崎市スポーツ協会 会長 中山 紳一	評価者	青少年支援室長
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 40,212人 (R6年度:35,981人) うち宿 泊:23,801人(R6年度:21,225人) うち日帰り:16,411人(R6年度:14,756人)	②年間延べ利用団体数 983団体 (R6年度:969団体) うち宿 泊:341団体(R6年度:325団体) うち日帰り:642団体(R6年度:644団体)
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 80,211,000 利用料金収入 13,497,095 参加費収入 5,913,400 物品販売収入 1,209,732 その他収入(食堂等) 18,439,323 補填金 567,333 合 計 119,837,883 2 支出 人件費 44,947,084 管理費 76,261,895 (委託費) (38,361,284) (光熱水費) (16,750,145) (修繕費) (3,208,590) (賃借料) (2,941,995) (その他経費) (7,368,737) (本部繰入金) (7,631,144) 合 計 121,208,979 差 引 -1,371,096	
サービス向上の取組	川崎市スポーツ協会のネットワークを活用し、地域教育会議や学校等への積極的な広報活動を実施したほか、ホームページやSNSを活用した情報発信により新規利用者の獲得に努めた。また、主催事業ではパラスポーツ体験事業や親子向け事業の充実を図り、参加機会の拡大につなげた。 利用者アンケートや窓口・電話での意見を継続的に収集し、施設設備の改善や食事内容の見直しなど、利用者ニーズを運営に反映した。加えて、近隣学校との連携による施設体験学習や地域事業への協力など、地域に開かれた施設運営を推進し、利用者満足度及び施設の認知度向上に努めた。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由) ・令和7年度については、事業計画通りに主催事業等実施した。 ・主な主催事業として、「サマーキャンプ」「オータムキャンプ」「プール開放」夏休みに高津区・宮前区の小学生を対象に「おもしろ実験」を実施した。 ・主催事業の拡充として、川崎市スポーツ協会の市内ネットワークを活用し、宮内中学校・橘中学校・犬蔵中学校・西梶ヶ谷小・川中島小・梶ヶ谷小でパラスポーツ「ボッチャ教室」、主催事業の「親子手打ちうどん教室」では好評のため、3回実施した。 ・利用者数について、日帰り利用・宿泊利用共に令和6年度より増加し、事業目標値の34,000人を上回った。(40,212人)				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	4	4
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	4	8
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) ・適切な金銭管理・会計手続について、財務関係諸規定等に基づいて会計処理がなされている。また、施設における金銭取扱者を定め別の職員が検査し、本部に送付する運用で整備されており適切に確認を行っている。併せて、本部の実施監査も行っており、相互チェック機能が働いている。 ・修繕については、東急コミュニティーの工事統括部署による見積精査を行うなど、コストの妥当性を確保した。また、消耗備品は価格比較を行い低廉な調達先を選定することで、経費削減に努めた。 ・光熱水費については、給湯・ボイラー・プール設備の稼働管理を適切に行うとともに、利用者への節電・節水の周知を徹底し、運営全体でのコスト削減に取り組んだ。 ・食料料金の見直しを実施し、必要経費の確保と収支改善を図るなど、収入確保の面でも適切な対応が図られている。				
サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・新規利用団体の誘致について、川崎市スポーツ協会の地域ネットワークを活かし、古市場小学校施設開放委員会・宮崎中学校区地域教育会議・宮前区地域教育会議・平間中学校地域教育会議で広報を実施。また、スポーツかわさきで青少年の家イベントスケジュールを紹介した。 ・広報・利用案内業務の強化について、近隣の小中学校、梶ヶ谷・宮崎こども文化センターへ主催事業のチラシや「青少年の家だより」を作成・配布し、本施設の広報強化を図った。 ・利用者の意見等の反映として、利用者からのアンケートを積極的に回収し、施設運営に反映させた。 ・学校連携について、近隣の小・中学校との連携強化のため、校長会において施設利用の案内を実施し、利用促進を図った。また、西梶ヶ谷小学校2年生の施設体験学習の受け入れをはじめ、学校行事への積極的な協力を行った。学校教育活動の支援として、西梶ヶ谷小学校の外遊びクラブへの施設提供、冷房故障時の代替授業場所の提供、福祉体験・町探検(西梶ヶ谷小・梶ヶ谷小)、地域調べ学習(宮崎中学校)等を受け入れた。 ・行政機関との連携について、毎週市民館に広報物を受け取りに行き、施設内での掲示・配布を実施した。また、川崎市文化財団と協力してパラアートの常設展示を行った。宮前区市政研究会に参加し、主催事業等の広報を行った。 ・利用者ニーズの把握については、入所時に代表者へアンケートを配布し、退所時に回収する方法で継続的に実施した。寄せられた意見は、特に食事内容について委託業者と共有し、サービス改善に反映させた。 ・電話や窓口での要望については職員間で随時情報共有を行い、引継ぎ漏れ防止に努めた。さらに、月1回の職員会議においてアンケート結果を分析し、設備不具合や施設環境の改善(備品修繕、障子・ふすまの貼替等)など、具体的な対応につなげ、利用者満足度の向上を図った。 ・朝礼、業務日誌、定例会議を通じて職員間の情報共有を徹底し、把握したニーズを組織的に運営へ反映させる体制を整えている。				

組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・所長・事業責任者・事業担当者には川崎市スポーツ協会職員を配置し、教員管理職経験者の登用により、地域や学校との連携を円滑に推進した。 ・総務責任者については、東急コミュニティーから施設管理の専門知識を有する職員を配置し、施設運営に加え、苦情対応や近隣住民との調整にも適切に対応できる体制を整えた。 ・非常勤・パート職員については、教員・管理職経験者を宿直職員として確保し、夏期にはプール監視員としても配置するなど、安全管理体制の強化を図った。さらに、事業運営に応じてボランティアスタッフを活用し、柔軟な人員配置に努めた。 ・職員の資質向上と安全・安心な施設運営を目的に、年間を通じて体系的な研修を実施した。防犯訓練では警察署職員を招き、さすまたを使用した実践的対応や不審物処理の講習を実施した。 また、日本赤十字社による救急講習(対面・リモート)を実施し、心肺蘇生法や応急手当等の技能向上を図るとともに、食品衛生研修により食中毒予防意識の強化を図った。 このほか、個人情報保護、消防訓練、野外活動の安全管理、園庭管理機器の取扱い、ユニバーサルマナー等、多様な分野の研修を計画的に実施し、職員の専門性向上と危機対応能力の強化に努めた。 ・個人情報保護を施設運営における最重要事項と位置付け、法令遵守のもと、情報管理体制の構築と職員への教育を徹底し、情報漏洩防止およびセキュリティ管理に努めた。 ・代表団体である東急コミュニティーはプライバシーマークを取得しており、適切な個人情報保護体制を維持している。 また、管理体制の整備に加え、eラーニングや内部講師による研修を実施し、職員の意識向上を図った。万が一事故が発生した場合には、関係機関への迅速な報告および社内規定に基づく対応ができる体制を整備している。				
	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
適正な業務実施	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか 事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか	5	3	3
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか 緊急時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか 災害発生時のマニュアル等が整備されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・保守管理については、東急コミュニティーの設備技術員を中心に保守点検業務を統括し、施設職員への指導を行うとともに、職員による日常巡回点検により不具合の早期発見に努めた。 ・清掃管理については、利用状況に応じた日常清掃に加え、床洗浄やガラス清掃等の定期清掃を実施し、施設の美観と衛生環境の維持を図った。併せて、職員による清掃状態の確認と指導により、清掃品質の確保に努めた。 また、設備の保守点検は年間計画に基づき適切に実施し、発見された不具合については速やかに修繕対応(誘導灯不良の交換等)を行うなど、安全・安心な施設運営を確保した。 ・利用者安全確保について、事故防止の取組として、東急コミュニティー本社による安全パトロールを実施するとともに、主催事業前には事前ミーティングや現地下見を行い、安全管理の徹底を図った。また、感染症対策として、事前の体調管理チェックや当日の検温・体調確認を実施し、利用団体に対しても受付時に注意喚起を行った。 事故対応については、日本赤十字社の講習を通じて、心肺蘇生法やAED使用等の救急対応能力を職員が習得し、緊急時に適切に対応できる体制を整備した。実際の事故発生時においても、迅速な救急搬送と関係部署への報告を適切に行い、再発防止に向けた注意喚起を実施した。 ・防犯対策について、日常的に職員による施設内巡回を実施し、異常の早期発見に努めるとともに、宮前警察署の協力による防犯訓練を実施した。 また、事故につながる恐れのある事案については職員間で共有し、安全教育および再発防止に努めた。 夜間については、宿泊利用の有無に応じて機械警備と宿直職員の配置を使い分けるなど、状況に応じた警備体制を整備し、施設の安全確保を図った。 ・災害への対応について、利用者および職員の安全確保のため、入所時オリエンテーションにおいて施設利用方法や災害時の避難方法の周知を徹底するとともに、資料配布や館内掲示により非常時の行動について継続的に注意喚起を行った。また、災害時の対応については職員間で事前に検討を行い、避難訓練を通じて内容の確認・改善を行うなど、実効性のある対応体制の整備に努めた。				

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

事業計画に基づき適切な施設運営が行われており、利用者数は40,212人と目標値34,000人を大きく上回るとともに、前年度比でも増加した。また、宿泊利用・日帰り利用ともに利用者数が増加し、学校やスポーツ団体等への積極的な働きかけが利用実績の向上につながった。 施設管理面では、保守点検や修繕を計画的に実施するとともに、防犯訓練や救急講習等を通じて安全管理体制の強化が図られている。さらに、利用者ニーズの把握と運営への反映、地域・学校・行政との連携などについても積極的に取り組んでおり、青少年教育施設として適正かつ安定した管理運営が行われたものと評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

利用者数の増加や地域・学校との連携強化などの成果を踏まえ、引き続き施設の設置目的に沿った事業の充実と新規利用者の開拓に努められたい。 一方で、施設の老朽化が進行していることから、日常点検や計画的な修繕を継続し、安全・安心な利用環境の確保に万全を期されたい。また、アンケート結果等を活用したサービス改善を継続するとともに、食堂サービスや空調設備に関する利用者の意見についても適切に対応し、更なる利用者満足度の向上に取り組まれたい。加えて、光熱水費等の物価上昇を踏まえ、効率的な施設運営と収支改善に向けた取組を継続されたい。
